

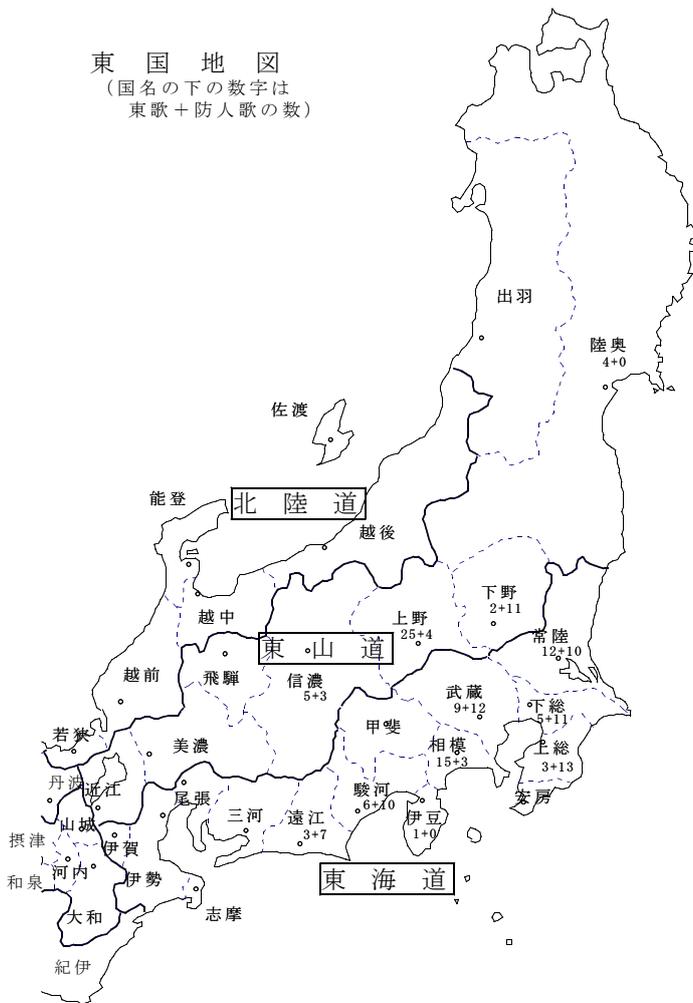
「東歌と方言」

群馬県立女子大学 北川 和秀

東歌・防人歌の国別集計

	東 歌					防 人 歌			合 計		
	雑歌	相聞	譬喩	防人	挽歌	勝宝7	昔年	昔年相替			
東海	遠江		2	1			7			10	
	駿河		5	1			10			16	
	伊豆		1							1	
中部	信濃	1	4				3			8	
関東	相模		12	3			3			18	
	上野		22	3			4			29	
	武蔵		9				12			21	
	下野		2				11			13	
	上総	1	2				13			16	
	下総	1	4				11			16	
	常陸	2	10				10			22	
	東北	陸奥		3	1						4
		不明	17	112	5	5	1	8	1		149
		合計	22	188	14	5	1	84	8	1	323

東国地図
 (国名の下の数値は
 東歌+防人歌の数)



1. 東国特有語

①「母」を表す言葉

「あも」下野防人 4

「おも」信濃防人 2、下総防人 1

「も」(母)下総防人 1

《参考》

「はは」遠江防人歌 3、駿河東歌 1、駿河防人歌 6、相模防人歌 2、上総防人歌 2、下総防人歌 2、常陸東歌 1、未勘国東歌 2

*「あも」は書紀歌謡にも見える。

②「しだ(時)」

上野防人歌 1、常陸防人歌 1、未勘国東歌 6

*「寝しな」「帰りしな」などという時の後世の「しな」にあたりと考えられる。ただし、「しな」の例は江戸初期まで下る。

③接尾辞「な」

「背な」武蔵防人歌 2、上野東歌 1、未勘国東歌 5

「子な」上総防人歌 1、未勘国東歌 1

「背なな」未勘国東歌 1

「背なの」上野東歌 1

「妹なろ」未勘国東歌 1

「妹のら」未勘国東歌 1

④接尾辞「ろ」

「安波峯(あはを)ろ」未勘国東歌 1

「青嶺(あをね)ろ」未勘国東歌 2

「伊香保ろ」上野東歌 4

「伊波保(いはほ)ろ」未勘国東歌 1

「家(いは)ろ」武蔵防人歌 1、上野防人歌 1

「妹ろ」未勘国東歌 1、昔年防人歌 1

「大野ろ」未勘国東歌 1

「小菅(こすげ)ろ」未勘国東歌 1

「言緒(ことを)ろ」未勘国東歌 1



「子ろ」相模東歌 3、下野東歌 1、常陸東歌 1、未勘国東歌 1 5、昔年防人歌 1
「背ろ」武蔵東歌 1、武蔵防人歌 1、未勘国東歌 2
「鳴瀬（なるせ）ろ」未勘国東歌 1
「嶺（ね）ろ」相模東歌 1、上野東歌 2、上総東歌 2、常陸東歌 3
「一嶺（ひとね）ろ」未勘国東歌 1
「日ろ」相模防人歌 1
「横山辺（へ）ろ」未勘国東歌 1
「心の緒（を）ろ」未勘国東歌 1
「山鳥の尾（を）ろ」未勘国東歌 1
「峯（を）ろ田」未勘国東歌 1

* 記紀歌謡に例があるので、元来は古語であろう。

* 「子ら」という語形もある。こちらは万葉集で広く使われており、50例ある。そのうち東歌・防人歌には10例（信濃防人歌 1、相模東歌 1、上野東歌 4、未勘国東歌 3、昔年防人歌 1）で、他の40例は中央の歌である。用例が少ないので慎重であるべきだが、上野以西は「子ら」、相模は「子ら」「子ろ」共存、下野以東は「子ろ」という分布ではある。

⑤ 下二段動詞・サ変動詞の命令形「～ろ」

「せよ」→「せろ」未勘国東歌 2
「つけよ」→「つけろ」武蔵防人歌 1
「ねよ」→「ねろ」未勘国東歌 1

⑥ 打消表現

「なふ」（「ず」の未然形＋ふ）武蔵東歌 1、常陸東歌 1、上野東歌 1、下野防人歌 1、
陸奥東歌 1、未勘国東歌 1 2
「なな」（「ず」の未然形＋助詞に）上野東歌 2、武蔵防人歌 2、未勘国東歌 2、昔年
防人歌 1

未然	連用	終止	連体	已然	命令
(な)	ず (に)	ず (ぬ)	ぬ	ね	

* 「なふ」は「ない」の古形か

⑦ 「あぜ」「あど」（「なぜ」「など」と関係あるか）

「あぜ」相模東歌 1、上野東歌 1、未勘国東歌 6
「あど」上野東歌 1、武蔵東歌 1、常陸東歌 1、未勘国東歌 4

* 「なぜ」の用例は江戸時代まで降る。「など」は古事記歌謡に例がある。

2. 子音交替

① t → s (関東)

- 「あめつち (天地)」 → 「あめつし」 下総防人 1、昔年防人 1
- 「いづち (何方)」 → 「いづし」 未勘国東歌 1
- 「かち (徒歩)」 → 「かし」 武蔵防人
- 「あもちち (母父)」 → 「あもしし」 下野防人 2
- 「たち (立ち)」 → 「たし」 武蔵防人歌 1、常陸東歌 1、常陸防人歌 1、下野防人歌 1
- 「まくらたち (枕太刀)」 → 「まくらたし」 武蔵防人歌 1
- 「はなち (放ち)」 → 「はがし」 武蔵防人歌 1
- 「はなち (放ち)」 → 「はなし」 上野東歌 1
- 「へだち (隔)」 → 「へだし」 未勘国東歌 1
- 「もち (持ち)」 → 「もし」 武蔵防人歌 2

② r → n

- 「らむ」 → 「なむ」 相模東歌 1、下総防人歌 1、未勘国東歌 1
- 「らむ」 → 「なも」 未勘国東歌 5

3. 母音交替

① u → o (関東)

・ 動詞連体形

- 「あふ (逢)」 → 「あほ」 未勘国東歌 1
- 「ある」 → 「あろ」 未勘国東歌 1
- 「こす (越)」 → 「こそ」 下総防人歌 1
- 「すむ (住)」 → 「すも」 未勘国東歌 1
- 「たつ (立)」 → 「たと」 未勘国東歌 1
- 「はふ (延)」 → 「はほ」 武蔵防人歌 1、上総防人歌 1、未勘国東歌 1
- 「ひく (引)」 → 「ひこ」 相模東歌 1
- 「ふる (降)」 → 「ふろ」 上野東歌 1
- 「まつ (待)」 → 「まと」 未勘国東歌 1
- 「もふ (思)」 → 「もほ」 未勘国東歌 1
- 「ゆく (行)」 → 「ゆこ」 下総防人歌 1、未勘国東歌 1

・ 動詞+完了り

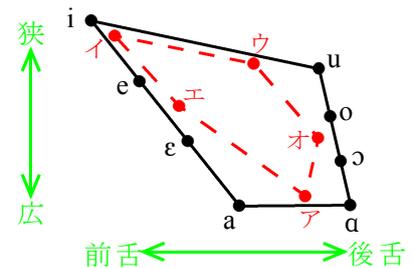
- 「のれる (告)」 → 「のらる」 未勘国東歌 1
- 「はれる (張)」 → 「はらろ」 未勘国東歌 1

・ 助動詞

- 「ぬ」 (完了ぬ) → 「の」 常陸東歌 1、未勘国東歌 2
- 「む」 (推量む) → 「も」 相模防人歌 1、上野東歌 1、上野防人歌 1、武蔵防人歌 5、
下野防人歌 1、上総防人歌 2、常陸防人歌 1、陸奥東歌 1、未勘国東歌 5
- 「らむ」 (推量らむ) → 「なも」 未勘国東歌 5

・ 助詞

基本母音と日本語の母音



「つつ」→「とと」武蔵防人歌 1

「なむ」→「なも」上野東歌 2

・それ以外

「とほたふみ（遠江）」→「とへたほみ」遠江防人歌 1

「いとま（暇）」→「いづま」遠江防人歌 1

「さきもり（防人）」→「さきむり」常陸防人歌 1

「すぐさ（過）」→「すごさ」未勘国東歌 1

*上代では「すぐす」が普通で、「すごす」はこの例のみ。平安時代に入ると、竹取物語に例があり、「すぐす」「すごす」が併用されるようになり、室町時代以降は「すごす」の方が普通。

「しみづ（清水）」→「せみど」未勘国東歌 1

「たまふ（賜）」→「たまほ」下総防人歌 1

「ふふまれ（含）」→「ほほまれ」下総防人歌 1

「ゆき（雪）」→「よき」上野東歌 1

「うさぎ（兔）」→「をさぎ」未勘国東歌 1

② i → e（関東）

・形容詞連体形

「あしき」→「あしけ」下野防人歌 1

「うつくしき」→「うつくしけ」武蔵防人歌 1

「うらがなしき」→「うらがなしけ」未勘国東歌 1

「かなしき」→「かなしけ」上野東歌 1、常陸防人歌 2、未勘国東歌 6

「くやしき」→「くやしけ」下野防人歌 1

「すみよき」→「すみよけ」武蔵防人歌 1

「ながき」→「ながけ」下総防人歌 1

「なやましき」→「なやましけ」未勘国東歌 1

「やすき」→「やすけ」未勘国東歌 1

・それ以外

「き（木）」→「け」下野防人歌 1

「さきく（幸）」→「さけく」常陸防人歌 2

「しみづ（清水）」→「せみど」未勘国東歌 1

「まきはしら（真木柱）」→「まけはしら」駿河防人歌 1

③ e → a（関東）

「いへ（家）」→「いは」上野防人歌 1、下野防人歌 1、武蔵防人歌 3、昔年防人歌 1

「いへる（言）」→「いはる」未勘国東歌 1

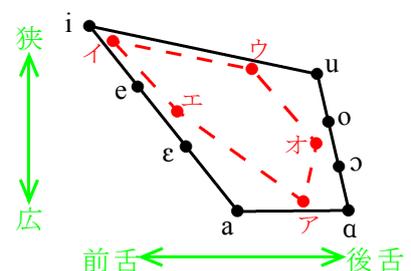
「けり」（助動詞）→「かり」下総防人歌 1

「こえだ（小枝）」→「こやで」未勘国東歌 1

「たてり（立）」→「たたり」下野防人歌 1

「とほけ（遠）」→「とほか」未勘国東歌 1

基本母音と日本語の母音

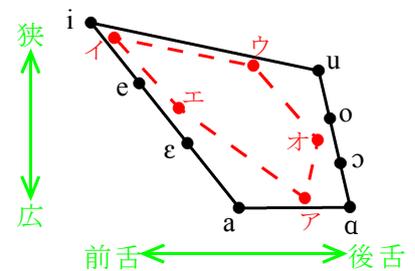


「のれる（告）」→「のらろ」未勘国東歌 1
 「へ」（助詞）→「は」昔年防人歌 1
 「はれる（張）」→「はらろ」未勘国東歌 1
 「ふふめる（含）」→「ふふまる」未勘国東歌 1
 「ふれる（降）」→「ふらる」常陸東歌 1
 「ほせる（乾）」→「ほさる」常陸東歌 1
 「もへり（思）」→「もはり」未勘国東歌 1
 「よけ（善）」→「よか」上野東歌 1
 「わすれ（忘）」→「わすら」常陸東歌 1、駿河防人歌 1

④ i → u（関東）

「に」（助詞）→「ぬ」上総防人歌 1
 「あしび（葦火）」→「あしぶ」武蔵防人歌 1
 「いきづく（息衝）」→「いくづく」未勘国東歌 1
 「かぢ（梶）」→「かづ」相模東歌 1
 「かみ（上）」→「かむ」未勘国東歌 1
 「こひし（恋）」→「こふし」武蔵防人歌 1
 「しりへ（後方）」→「しるへ」下総防人歌 1
 「すぎ（過）」→「すぐ」下野防人歌 1
 「にひなへ（新嘗）」→「にふなみ」未勘国東歌 1
 「はり（針）」→「はる」武蔵防人歌 1
 「ゆり（百合）」→「ゆる」常陸防人歌 1

基本母音と日本語の母音



⑤ u → i（主に関東）

「こふ（恋）」→「こひ」遠江防人歌 1
 「つき（月）」→「つく」武蔵防人歌 1、下野防人歌 1、常陸東歌 1、未勘国東歌 2
 「ぬの（布）」→「にの」常陸東歌 1、未勘国東歌 1
 「むた（共）」→「みた」下総防人歌 1

⑥ a → o（信濃・関東）

「うなはら（海原）」→「うのはら」相模防人歌 1
 「ここだ（多）」→「こごと」未勘国東歌 1
 「たなびく」→「とのびく」信濃防人歌 1
 「ながらへ」→「のがなへ」未勘国東歌 1
 「なす（如）」→「のす」上野東歌 1、下野東歌 1、武蔵防人歌 1、未勘国東歌 5
 「また（待た）」→「待（ま）と」未勘国東歌 1

⑦ e → i（東海・南関東）

「いへ（家）」→「いひ」駿河防人歌 1
 「いそへ（磯辺）」→「おすひ」下総東歌 1

「かね」→「かに」武蔵防人歌1、未勘国東歌1
「かへり（帰）」→「かひり」駿河防人歌1
「せ」（サ変未然）→「し」未勘国東歌1
「しまかげ（島陰）」→「しまかぎ」下総防人歌1
「つげ（告）」→「つぎ」常陸防人歌1
「ね」（完了の助動詞ぬ命令形）→「に」未勘国東歌1
「はなれ（離）」→「はなり」武蔵防人歌1
「め（妻）」→「み」駿河防人歌1

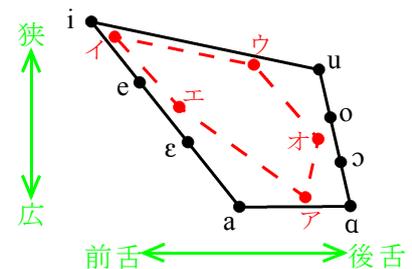
⑧ e → o（東海・信濃・下総）

「おもへ（思）」→「おめほ」駿河防人歌1
「かげ（影）」→「かご」遠江防人歌1
「こえ（越）」→「こよ」信濃防人歌1
「ささげ（捧）」→「ささご」遠江防人歌1
「てし」（完了つ+過去き）→「とし」下総防人歌1
「てれ（照）」→「とれ」未勘国東歌1
「われ（吾）」→「わろ」駿河防人歌1

⑨ o → e（東海）

「ぞ」（助詞）→「ぜ」駿河防人歌1
「と」（助詞）→「て」駿河防人歌2
「も」（助詞）→「め」駿河防人歌1
「よ」（助詞）→「え」駿河防人歌1
「よす（寄）」→「えす」駿河防人歌1
「おび（帯）」→「えひ」昔年防人歌1
「おもかはり（面変）」→「おめかはり」駿河防人歌1
「おもへ（思）」→「おめほ」駿河防人歌1
「ことば（言葉）」→「けとば」駿河防人歌1
「たたみこも（暈薦）」→「たたみけめ」駿河防人歌1
「こもち（子持）」→「こめち」駿河防人歌1
「とほたふみ（遠江）」→「とへたほみ」遠江防人歌1
「とをらひ」→「とゑらひ」下総防人歌1
「わぎもこ（吾妹子）」→「わぎめこ」駿河防人歌1

基本母音と日本語の母音



⑩ o → u（上野・下野を除く広域）

「いも（妹）」→「いむ」遠江防人歌1、常陸防人歌1
「いそへ（磯辺）」→「おすひ」下総東歌1
「おほせ（負）」→「おふせ」下総防人歌1
「かど（門）」→「かつ」下総防人歌1
「かも」（助詞）→「かむ」信濃防人歌1

「かよは（通）」→「かゆは」遠江防人歌 1
「からころも（韓衣）」→「からころむ」信濃防人歌 1
「こえ（越）」→「くえ」常陸防人歌 2
「こほしく（恋）」→「くふしく」駿河防人歌 1
「あをくも（青雲）」→「あをくむ」信濃防人歌 1
「しろは（白羽）」（地名）→「しるは」遠江防人歌 1
「たどき」→「たづき」下総防人歌 1
「の（野）」→「ぬ」下総防人歌 1
「よとこ（夜床）」→「ゆとこ」常陸防人歌 1
「より」（助詞）→「ゆり」遠江防人歌 1、常陸防人歌 1

4. 濁音化

「は」（助詞）→「ば」未勘国東歌 1
「す」（尊敬す）→「ず」未勘国東歌 2
「ここだ（数多）」→「こごと」未勘国東歌 1
「はも」（助詞）→「ばも」未勘国東歌 2
「もち（持）」→「もち」上総防人歌 1
「ゆか（行）」→「ゆが」未勘国東歌 1
「ゆく（行）」→「ゆご」未勘国東歌 1

5. 助詞の用法（中央では「の」を使うところに「が」を使う）

「小竹が葉」昔年防人 1
「紐が緒」上野防人 1

6. 意味用法

①「かなし」

* どうしようもないほど痛切な感情を表す語で、「つらく切ない」という意味と、「かわいくてたまらない」という意味とがある。中央の歌では大部分が前者の意味であるのに対して、東国の歌では大部分が後者の意味である。

②「あやに」

* 「言いようもなく」「むしように」という意の語。中央の歌では、挽歌を初めとする宮廷儀礼歌によく用いられ、「あやに畏(かしこ)し」や「あやに貴し」など荘厳な様子を形容するのに用いられているのに対し、東国の歌では強く異性を思う「あやに愛(かな)し」という用例が多い。

③「きみ」

* 上代においては女性が男性に対して用いるのが一般的。ところが上総防人歌に 1 例だけ男性が女性に対して用いた例がある。

東歌・防人歌選

1. 東国方言が用いられていないもの

- ① 足の音せず行かむ駒もが葛飾の真間の継橋やまず通はむ（下総東歌） 3387
- ② 信濃なる千曲の川の小石も君し踏みてば玉と拾はむ（信濃東歌） 3400
- ③ 吾が恋は現在もかなし草枕多胡の入野の将来もかなしも（上野東歌） 3403
- ④ 伊香保風吹く日吹かぬ日ありと言へど吾が恋のみし時なかりけり（上野東歌） 3422

2. 関東方言が用いられているもの

- ① 筑波嶺に雪かも降らる否をかも愛しき児ろが布乾さるかも（常陸東歌） 3351
- ② 小筑波の嶺ろに月立し間夜は多なりのをまた寝てむかも（常陸東歌） 3395
- ③ 新田山嶺には着かなな吾によそり間なる子らしあやに愛しも（上野東歌） 3408
- ④ 上毛野伊香保の嶺ろに降ろ雪の行き過ぎかてぬ妹が家のあたり（上野東歌） 3423
- ⑤ 高麗錦紐解き放けて寝るが上に何どせろとかもあやに愛しき（未勘国東歌） 3465
- ⑥ 夕占にも今夜と告らろわが背なは何そも今夜寄しる来まさぬ（未勘国東歌） 3469
- ⑦ 人妻と何か其をいはむ然らばか隣の衣を借りて着なはも（未勘国東歌） 3472
- ⑧ 佐野山に打つや斧音の遠かども寝もとか子ろが面に見えつる（未勘国東歌） 3473
- ⑨ 子持山若鶏冠木の黄葉つまで寝もと吾は思ふ汝は何どか思ふ（未勘国東歌） 3494
- ⑩ 面形の忘れむ時は大野ろにたなびく雲を見つつ俣はむ（未勘国東歌） 3520
- ⑪ 旅と云ど真旅になりぬ家の母が着せし衣に垢つきにかり（下総防人歌） 4388
- ⑫ 天地のいつれの神を祈らばか愛し母にまた言問はむ（下総防人歌） 4392
- ⑬ ちはやぶる神の御坂に幣奉り齋ふ命は母父が為（信濃防人歌） 4402
- ⑭ 赤駒を山野に放し捕りかにて多摩の横山徒歩ゆか遣らむ（武蔵防人妻歌） 4417
- ⑮ 家ろには葦火焚けども住み好けを筑紫に到りて恋しけもはも（武蔵防人歌） 4419
- ⑯ 足柄の御坂に立して袖振らば家なる妹は清に見もかも（武蔵防人歌） 4423

3. 東海方言が用いられているもの

- ① わが妻はいたく恋ひらし飲む水に影さへ見えて世に忘れず（遠江防人歌） 4322
- ② 真木柱讃めて造れる殿の如いませ母刀自面変りせず（駿河防人歌） 4342
- ③ 吾等旅は旅と思ほど家にして子持ち瘦すらむわが妻かなしも（駿河防人歌） 4343
- ④ 忘らむて野行き山行き我来れど我が父母は忘れせぬかも（駿河防人歌） 4344
- ⑤ 父母が頭かき撫で幸くあれていひし言葉せ忘れかねつる（駿河防人歌） 4346
- ⑥ 大君の命かしこみ青雲のとの引く山を越よて来ぬかむ（信濃防人歌） 4403